

## 【岡山大学病院 腎泌尿器科】

### ETA 治療の世界初 First-in-Human 症例報告が米国際誌に掲載

- 頻尿知覚に踏み込む新たな治療戦略、岡大泌尿器科一丸で世界へ発信 -

岡山大学病院 腎泌尿器科では、難治性過活動膀胱に対する新規治療「ETA 治療 (Endoscopic Topical Application)」の世界初 (First-in-Human) 症例報告が、米国際誌に掲載されました。

定平 卓也 研究准教授と渡部 昌実 教授が中心となり、荒木 元朗 教授、渡邊 豊彦 教授をはじめ岡山大学病院腎泌尿器科一丸で磨き上げてきた成果が、世界初の症例報告として結実しました。

#### ETA 治療 (ETA 頻尿治療) とは

ETA 治療 (ETA 頻尿治療) は、内視鏡を用いて膀胱三角～膀胱頸部など、尿意に関する領域を標的に、薬剤を粘膜表面へ直接塗布・浸透させる新しいアプローチ (頻尿デナベーション) です。従来治療で十分な改善が得られにくい尿意切迫感や頻尿・夜間頻尿といった症状に対して、より「感覚 (尿意)」に踏み込んだ治療戦略を提案します。

#### 次のステージへ

今回の掲載をスタートラインとして、当科では症例の蓄積、手技・適応の整理、データ取得の標準化などを進め、治療開発と学術発信をさらに加速させていきます。臨床から生まれたイノベーションを、岡山から全国へ、そして世界へ。今後の展開にもぜひご注目ください。

詳細は以下の岡山大学プレスリリースをクリックしてください

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1487.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1487.html)

【注】本稿でいう ETA 治療 (Endoscopic Topical Application : ETA 頻尿治療) は、耳鼻咽喉科領域で用いられる EAT 治療 (Epipharyngeal Abrasive Therapy : 上咽頭擦過治療) と名称が類似していますが、治療目的・対象疾患・手技はいずれも異なる別個の治療です。混同にご注意ください。

## 論文の概要

難治性の過活動膀胱は、飲み薬（抗コリン薬、 $\beta$ 3作動薬）や、膀胱の筋肉（排尿筋）にボツリヌストキシン（BTX）を注射する治療が確立している一方で、それでも十分に良くならない患者さんがいます。

近年、原因は「膀胱の筋肉」だけではなく、尿意（トイレに行きたい感覚）を感じ取る感覚の仕組みが過敏になっていることも関係すると考えられてきました。特に膀胱の出口に近い三角部（さんかくぶ）には、粘膜の表面近くに感覚神経のネットワークが存在し、尿意切迫感や頻尿が残る一因になり得ます。

従来の BTX 治療（排尿筋への注射）は、薬剤が主に筋肉内に分布するため、三角部の表面近くの感覚神経には十分作用しにくい可能性があります。そこで本報告では、内視鏡で膀胱内を観察しながら、空気で膀胱を展開した状態で三角部の粘膜表面に BTX を直接塗布し、浸透させる方法として、ETA 治療（Endoscopic Topical Application）を行いました。

症例は、長年の難治性過活動膀胱に対し、排尿筋内 BTX 注射を繰り返しても改善は部分的でしたが、ETA 治療後に臨床的に意味のある症状改善が得られました。夜間頻尿、尿意切迫感、尿意切迫性尿失禁が改善し、1回の排尿量も増加しました。合併症は術後一過性の尿道痛のみでした。

この症例は、ETA 治療が難治性過活動膀胱に対して、感覚の過敏性に焦点を当てた新しい治療選択肢になり得ることを示唆します。

Sadahira T, Sugihara M, Mitsui Y, et al. (January 09, 2026) Endoscopic Topical Application (ETA) Therapy for Refractory Overactive Bladder: A First-in-Human Report. Cureus 18(1): e101143. doi:10.7759/cureus.101143

<https://www.cureus.com/articles/451592-endoscopic-topical-application-eta-therapy-for-refractory-overactive-bladder-a-first-in-human-report#/!/>

【注】本稿でいう ETA 治療と ETA 頻尿治療は同一の治療（Endoscopic Topical Application）を指します。表記の違いによる内容の差はありません。